

Youth Post

元気浚刺

2026
vol.

3

111巻第3号 発行2026年8月1日

編集・発行 日本青年団協議会

〒160-0013

東京都新宿区ヶ丘町4-1日本青年館5階

TEL 03-6452-9025 FAX 03-6452-9026

seinen@dan.or.jp <https://www.dan.or.jp>

夏祭りや地域イベントのにぎわいのなか、まちに元気を届ける若者たちがいます。本号では、伝統行事を支える青年団が、準備に汗を流す姿、世代を超えた交流、地域を盛り上げようと奮闘する様子をお届けします。

友好提携都市ブラジル・マリリア市へ、泉佐野市青年団協議会代表5名が渡航。「ジャパンフェスタ」でのだんじり囃子披露は大きな拍手に包まれ、郷土文化を世界へ発信した7日間となった。

全国青年大会フットサル競技へ毎年派遣している泉佐野市青年団協議会。「今年は優勝します」と千代松市長に固く誓った。(写真は2025年度第73回全国青年大会の競技中の写真)



7月5日、クリーン&コネクト和歌山と合同で大阪城にて清掃活動を実施。日青協を通じた縁が、府外の団体との新たな活動につながった。

INFORMATION

日本青年団協議会の最新情報ははこちらから



そーりや、いくで！

～主役は現役、舞台は全国へ～ (大阪府泉佐野市)

6月9日、エブノ泉の森ホールにて73回目となる泉佐野市青年団協議会(以下、市青協)定期総会が開催された。4つの学区(小学校区)から8団体・約250名の団員が加盟する市青協の一年のはじまりを、来賓として千代松市長、山田教育長、市青協OB会である青翔会、近隣の3つの青年団(岸和田市・泉南市・忠岡町)など大勢の関係者が集い盛大に祝った。泉佐野市はだんじりが有名で、お祭りの



青年団研修直前、靖国神社に奉納された絵馬。
11月の全国青年大会フットサル競技での日本一が、その第一歩だ。

ときだけ集う「お祭り青年団」としてだけではなく年間を通して活動しているのが特徴的だ。社会部を筆頭に組織部・文化スポーツ部・防災部の4部体制を取り、投票率向上・人権啓発活動などに力を入れている。

●2名から250名へ

現在約250名の団員数を誇る市青協だが、かつては団員2名の時期もあった。当時会長を務めたOBの一人、目孝一さんは「青年団と人生最後まで共にする覚悟だった」と、往年の盛り上がり

を嬉しそうに振り返った。

●まちの空気が変わった

どん底を経験した市青協が、ここ20年間でなぜここまで復活を遂げたの

か。背景には複数の要因がある。泉佐野市には「青翔会」というOB組織がある。思いやりからでてくる「押しつけ」への抵抗感が会につきまとうことは少なくないが、青翔会は「主役は現役」を大切にし、現役の向き合い方や取り組みの姿勢に対してのみ助言を伝えるスタンスを貫いている。千代松市長は青年団を市政の中心に位置づけ、モンゴルやブラジルへのだんじり囃子披露など、市を代表して経験を積む場を設け、全国青年大会への派遣も後押しする。そんな泉佐野市には、関西国際空港があり、開港した年に上海でだんじりを披露し好評を博した。今の現役たちもその話を聞き、いつか海外でも披露したいと願っている。

る。教育長もまた「学び合い・共同学習」を掲げ、若者を地域の中心に据える姿勢を示した。市青協の事務局は青少年課が担うなど、支援体制も整う。

●地域から全国へ

こうした地域全体の関わりのおかげで、今年度から会長を務める野本幸希さん(33)の挨拶が印象的だった。「地域の方々の若者との向き合い方が変わり、応援する空気を感じ。共に頑張りましょう」と出席者に呼びかけた。定期総会終了後には、多くの青年団員が懇親会で夜遅くまで交流を深めた。地域に根ざした青年団の活動が各地で活発になるとき、それが全国組織の力にもなっていく。

●大崎 博士(日本青年団協議会 監事)より投稿



平日の夜にも関わらず、定期総会・懇親会終了後も交流を深める青年団員たち(左から岸和田市青協顧問宮口涼さん、泉佐野市青年団協議会 元会計 顧問 野口 翼さん、泉佐野市青協元会長・日青協執行理事吉本翔さん、岸和田市青協会長久禮 和真さん。)



定期総会と新旧交流会の二部制で開催された会は、吉本さんが感謝を伝えたいと言ってお招きした来賓の方々で会場は埋め尽くされ、その数は史上最高数であった。定期総会集合写真で、日青協からは大崎博士監事が出席。



大阪府
泉佐野市

つながりのミナモト

～ほやの熱、青年の夏～ (宮城県石巻市)

実際に現地へ足を運んだ。



宮城県
石巻市

7月4日～5日、宮城県石巻市で「ほやっほー祭2026」が開催され、集まった参加者は約3万人にのぼる。主催したのは、3月に日本青年館で行われた全国まちづくり若者サミット2026にゲストスピーカーとして登壇した「ほやドル」の萌江さん。当日は若者サミット参加者も

石巻の名産「ほや」をはじめ、人や食などを通して地元を盛り上げたいという思いがこもったお祭りである。萌江さんの頑張る姿に心動かされ、県内外からボランティアに駆けつけたファンもスタッフと一丸となって手作りで運営する。祭

「若者サミットでできたこのつながりを終わらせたくない」という思いから、交流会を企画した。県外からの参加者は少ないと考えていたが、実際は茨城や神戸、東京など全国各地から仲間が集まった。参加者からは、初対面の人でも気兼ねなく話せ、地域や年代を越えて対等に話ができたり、刺激を受け合える場所があることが貴重だったと声があつたという。



ほやっほー祭のために集った仲間たちと交流会でつながりを深めた

りそのものではもちろん、様々な場所での「つながり」が深まった。その一つが、宮城県の青年団が中心となって開催した交流会だ。

佐藤優空さん(21)は、

●大野 諒さん(宮城県青年団連絡協議会 会長)・木村 莉菜さん(蔵王町青年団体連絡協議会 広報)より投稿
■お問合せ: 宮城県青年団連絡協議会 Mail: mailseinenmiyagi@gmail.com

命を守る力

～地域で育む防災の学び～ (香川県高松市)



香川県
高松市

7月11～12日、香川県青年センターで、香川県連合青年会と丸亀市子ども育成連絡協議会の共催事業「令和8年度防災サバイバル合宿IN国分寺」が開催され、青年団が講師やスタッフとして協力した。

2015年から続く本事業は、青年セ

ンターの防災講習会として地域住民や青年の防災意識向上を目的に実施されている。参加者は市内の小学5年生をはじめ、ジュニアリーダークラブの中高生、ユースリーダー、指導員、事務局、青年団員など多世代にわたった。

当日は、KYTTトレーニングや防災講義、ロープワーク、搬送法などの実践的な講習に加え、防災ウォークラリーが実施された。ウォークラリーは、6人1組で目隠しや片足歩行など不自由な状態を体験しながら、敷地内15か所の



防災講義の中で、真剣に地震の仕組みを聞く子どもたち

レーニングや防災講義、ロープワーク、搬送法などの実践的な講習に加え、防災ウォークラリーが実施された。ウォークラリーは、6人1組で目隠しや片足歩行など不自由な状態を体験しながら、敷地内15か所の

防災に関する知識や技術を身につけるだけでなく、地域の青少年・社会教育団体が連携・協力することで、地域の防災力向上と次代を担う人材育成につながる有意義な取り組みとなった。

●西川 佳子(日本青年団協議会 執行理事)より投稿 ■お問合せ: 香川県連合青年会 Mail: seinenkagawa@yahoo.co.jp

地域活動ラボ

地域青年による活動はその多岐にわたる活動を通じて、まちや地域が活気づくだけでなく、人間関係の応答をととして自分のできることが増えたり、視野が広がるといふ、いわば地域を担う若者を育むという重要な意味を持つ。日本青年団協議会が主催する「全国地域青年『実践大賞』」は、各地の取組を集め、有識者によって評価される貴重な機会である。本企画では、実践大賞に応募された取り組みを審査に携った審査員自らが分析し、活動の社会的な意義を明らかにしていく一昨年から始まった連載「地域活動ラボ」。第12回目となる今回は、岩手県青年団体協議会の「活動家研修会」、陸前高田市青年団体協議会の「気仙大工左官伝承館煤払い」の2実践について紹介する。

2025年度全国地域青年「実践大賞」

審査員 澁谷 隆

(元一般財団法人日本青年館公益事業部長)

●活動家研修会のテーマは「情報発信」

岩手県青年団体協議会

【取り組み概要】

2026年1月25日、岩手県青年団体協議会(以下、県青協)が数年ぶりに活動家研修会を岩手県青少年会館で開催し、日本青年団協議会の棚田一論(かすのり)事務局長を講師に迎え、「情報発信」について学ぶ機会をつくった。集まった6名がInstagramを題材に、アカウントを作成して実際に投稿。組織として責任ある投稿やそのルールについて学んだあと、さらに再投稿にチャレンジ。各青年団での発信力強化に一役買った。



活動家研修会は、県内の加盟団が顔を合わせ互いに意見を出し合う大切な機会にもなった

必要性は感じていたものの、参加者の減少などで開催には至らなかった活動家研修会だが、同じ課題を持つているメンバーが集まることで生まれる成果を実感できたという。

【解説】

活動家研修会という名で事業を行っている青年団は今のくらいあるだろうか。かつては盛んに行われており、名称もリーダー研修会とは呼ばずに活動家研修会という名前がこだわりの持って使われていた。一人のリーダーを育てるのではなく団員みんなが活動家になることに重きを置いていたからだ。人によっては「活動家」という呼び方にある種の過激な社会運動をイメージするかもしれないが、要は青年団活動の目標を実現するために必要なことを学ぶ学習会である。

例えば平和運動を進めようと方針に掲げたら、そのために必要なことを専門家から学んだり、グループワークやディスカッションを通じて理解を深め、具体的な行動計画をつくることもある。地域づくりやスポーツ・文化、教宣や広報、組織運営や事務局運営、レクリエーションやなどテーマは多様で、子どもの体験活動など時々社会状況も反映される。

日青協や道府県団では新年度がスタートしたばかりの5〜6月に開催

れてしまうのも確かだ。若者集団らしく軽やかに、かつ組織として責任ある情報発信の必要性を学んだ意義は大きかっただろう。もう一つ、青年団にとって地域の団員が定期的に集まり、互いに学びあい交流する時間も大切である。団員の顔触れが変わる年度初めに集まる意義もそこにあった。

今の時代、情報は無限ともいえるほどネットにあふれ、社会の変化もめまぐるしい。地域を活動基盤にする若者の集団として学ぶテーマを選ぶのも難しい。青年団の目的に照らし合わせてみれば、組織の基本的な運営を学ぶとともに、地域のすべての人がより良い暮らしを送るために必要なことは何か学ぶことが必要になってくる。

県青協の活動家研修会は、どう発信するかに加えて、次のステップでは何を発信するかを集まったメンバーで考える機会になることが期待される。

●気仙大工左官伝承館煤払い

陸前高田市青年団体協議会

【取り組み概要】

年に一度、陸前高田市青年団体協議会(以下、市青協)が市内の小友町(おともまち)に建てられた「気仙大工左官伝承館」の煤払いに取り組んでいる。気仙大工とは、江戸時代に農家が生計を支えるために始めた大工仕事が発展し、神社仏閣や彫刻

まで手掛ける高度な技術を備えた大工たちである。伝承館には建築模型や工芸品、解説資料なども展示され、いろいろを囲みながら解説を聞くこともできる。限られた人手の中、1日かけているりにいふされた蛍光灯を外し、梁や天井の煤を箒(ほうき)やコンプレッサーできれいにしていく。以前は気仙大工の発祥地である小友町(おともまち)の青年会が担っていたが、団員不足で活動継続が難しくなり、市青協が引き継いだ。昨年は12月14日に実施。毎年市青協の煤払いの後、新たに見学者を迎える準備が整う。

【解説】

この活動に込められた意義は大きく2つあるのではないか。一つは、暮らしに身近な施設を大切に保全していく自治活動の側面だ。市青協が煤払いをしたのは、観光施設となっている気仙大工左官伝承館だ。観光施設以外にも広げれば、定期的な清掃活動の例は青年団に多く見られる。普段自分たちの活動の場となる公民館や青年会館の清掃を行う青年団は多い。祭りに注力する青年団はあたり前のように神社や寺の清掃に取り組み、公共地の草刈り、側溝や水路の清掃まで含めると相当数に上るはずだ。これら地域の暮らしに必要な施設の保全は大切な自治活動であり、青年団が長く担ってきた役割の一つだ。もう一つは、江戸時代に確立された



気仙大工の技術を今に伝える伝承館。囲炉裏の煤を現役大工の青年会員が梁の上に登って払う

といわれる気仙大工左官の技術を伝えていく歴史・文化の継承の側面である。祭りや民俗芸能で青年団の果たす役割は大きい。同じことが暮らしを支えた伝統技術にも言える。大工や左官といった職人技を直接受け継ぐことは難しくとも、その歴史や伝統を地域に伝え誇らしいものとして共有していくことはできるからだ。

今日の文化財行政においても、子どもたちが文化財の価値や魅力に触れる地域学習が担い手を広げていくうえで有効としている。ならば、年に一度の煤払いを貴重な体験の機会として、子どもからお年寄りまで広く関わってもらうことはできないだろうか。陸前高田市ばかりでなく気仙地域の文化継承の機運を高める活動は、まさに青年団だからこそ担える大きな役割の一つである。

居場所と出番、政策で守る

(一財)日本青年館は今年3月、「若者の地域活動の支援・推進に向けた政策提言」を取りまとめた。青年団をはじめとする若者たちの居場所や出番を確保、社会参画の環境整備を訴える内容だ。これを受け、6月26日には全国1741市区町村の首長宛てに提言書を発送。青年団OBの首長らの協力を得て行政への活用を促すほか、文科省など国へも働きかける。さらに9月7日には「若者政策担当者オンライン情報交換会」も開催予定だ。若者の主体的な活動を支える本提言は、紙面のQRコードからダウンロード可能。

地域の未来のために自治体を回るときには活用していこう。



し、様々な地域の活動に生かされ、年度末に開かれる青年問題研究集会でその成果や課題を持ち寄る。次につなげる課題を明らかにして次年度の活動に生かしていくサイクルが青年団活動の根幹を支えてきた。

県青協の活動家研修会は、「情報発信」がテーマだった。県内の地域青年団の課題として、日頃の地域活動は取り組まれているものの、参加者や周囲の認知度の伸び悩みが共通していたようだ。SNSを使った情報発信は今や若者に限らず必須になっている。しかしながらまだまだ個人の経験や力量に委ねら

月刊 社会教育

創刊1957年。実践家と研究者による市民のための社会教育総合誌。公共施設や教育施設における社会教育はいまどうあるべきか。毎号幅広いテーマで社会教育の在り方を見つめます。

定価：本体741円＋税

旬報社 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町544 中川ビル4F
TEL03-5579-8973 FAX03-5579-8975 http://www.junposha.com/

日本青年館ホール

検索

「日本青年館ホール」で検索、もしくは右記QRコードよりお読みください。



〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号
TEL:03-6447-5660
ACCESS: 東京メトロ銀座線 外苑前駅2b出口より徒歩5分



私たちは日本の社会教育を、全国の青年団を通じて行っています。

みんなの
アイデアが
力になる



エリナちゃん



北方領土
イメージキャラクター
エリカちゃん



北方領土問題 キャッチコピーの 募集

応募期間

令和8年

5/20(水)

9/30(水)

啓発広報に使用するキャッチコピーを大募集！
あなたの作品が北方領土返還のカギになる。

エリヨシくん



最優秀賞

5万円
(1名)

賞状 + 賞金

優秀賞(4名) 賞状 + 賞金2万円

佳作(5名) 賞金5千円

参加賞 応募者の中から抽選で50名に
QUOカード(1,000円相当)をプレゼント

※高校生以下の受賞者は賞金に代わり図書カードを授与します。
※同一作品が入選した場合、その応募者全員を入選者として表彰の受賞者は選考会による抽選で1名を決定します。

応募資格: 不問(どなたでも応募可能)

どなたでも。
何点でも応募可能！



エリオくん

お問い合わせ

北方領土問題キャッチコピー(令和8年度)募集係 (B型就労支援
事業所カナエル内)
TEL: 011-590-0269 (平日10:00-17:00)

応募方法

応募フォーム

ハガキ

封書

FAX

電子メール

主催

独立行政法人北方領土問題対策協会
<https://www.hoppou.go.jp/>

応募の詳細は裏面にあるよ ▶

応募フォーム



みんなのアイデアが力になる

北方領土問題 キャッチコピーの募集

応募期間

令和8年

5/20(水) ▶ 9/30(水)

お問い合わせ

北方領土問題キャッチコピー(令和8年度)募集係
〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西27丁目3-17
B型就労支援事業所カナエル内

TEL:011-590-0269 (平日10:00-17:00)

主催

独立行政法人北方領土問題対策協会
<https://www.hoppou.go.jp/>

応募方法

①～⑤のいずれかの方法でご応募下さい。

①はがきの場合 ※締切日消印有効

- ・この紙の必要記入事項、応募作品欄に記入
- ・点線にそって切り取り、はがきに貼って郵送する

②封書の場合 ※締切日消印有効

- ・この紙の必要記入事項、応募作品欄に記入
- ・「切り取らずに」封筒に入れ、下記住所に郵送する

〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西27丁目3-17
B型就労支援事業所カナエル内
北方領土問題キャッチコピー(令和8年度)募集係

③ファックスの場合 ※当日必着

- ・この紙の必要記入事項、応募作品欄に記入
- ・「切り取らずに」下記番号にファックスを送る

050-3094-9216

④電子メールの場合 ※当日必着

- ・氏名(ふりがな)・年齢(任意)・性別(任意)・職業・郵便番号・住所
 - ・電話番号・この募集を何で知ったか・作品(ふりがな)を記入
- hoppou@mirasup.info

⑤ホームページから ※当日必着

<https://www.copy-hoppou.com/>

ご応募にあたって

- 本応募用紙の必要事項を全てご記入の上、ご応募ください。
- AI(人工知能)を使用した作品の応募はご遠慮ください。
- 1人何作品でも応募できます。ただし、入選作品は1人1作品までとします。
- 入選作品は、啓発グッズ、パンフレット等に使用します。
- ご応募いただいた作品は返却いたしません。また、入選作品の著作権は主催者(独立行政法人北方領土問題対策協会)に帰属します。
- 学校・クラス単位で応募いただく場合には、所定の応募用紙(学校用)に「学校応募添付台紙」を同封の上、お送りください。
- 応募作品が入選した場合、氏名、居住地の都道府県名が公表されます。
- 今回の募集で得た個人情報、入選作品の選考と発表、入選者、当選者への連絡等を目的に利用するとともに、安全に管理します。

一般応募用紙

--	--	--	--	--	--	--

〒060-0007

北海道札幌市中央区北7条西27丁目3-17

B型就労支援事業所カナエル内

北方領土問題キャッチコピー(令和8年度)募集係宛

ふりがな	年齢(任意)
氏名	性別(任意)
職業	
住所 〒	
電話番号(ハイフンなし)	
この募集は何で知りましたか? ☐ WEBサイト ☐ 雑誌 ☐ SNS ☐ チラシ・ポスター ☐ 知人からの紹介 ☐ 学校からの紹介 ☐ その他()	

応募作品欄

作品 1	ふりがな
作品 2	ふりがな
作品 3	ふりがな

※AIを使用した作品は応募できません。



みなさんの想いや考え方を交換する新企画。

どなたでも投稿できる掲示板です。投稿する内容はちょっとしたことでOK！
新聞への感想、事業の告知・報告、日頃考えていることや悩み、ちょっと誰かに伝えたいことなどなど、なんでもお寄せください！



青年団研修に参加しました



6月13日から14日にかけて日本青年館（東京都新宿区）で開催された青年団研修に参加してきました。初日の歴史講話では、戦前の青年団が陸軍・海軍に爆撃機を贈答し、その試験飛行の映像が今も残っていることを初めて知りました。戦後の青年団は社会に向けて声を上げ続け、沖縄返還運動や今なお続く北方領土返還運動の原点をつくってきました。皆さんは知っていましたか？今の日青協の活動はその積み重ねの上にあると知り、過去から今へ自分たちの活動がつながっていることを実感しました。権現堂青年団・泉佐野市青年団協議会・岡山県青年団協議会の発表でも、中々表には出てこない活動の経緯や想いを直接聞いたことが、何より学びになりました。最近、仲間の活動に学ぶ機会が限定されていたので、あらためてこういう場って、大事だなと素直に思いました。日青協主催の研修を地元を持ち帰って、仲間に伝えていきます！

（岩手県青年団体協議会・松田 恵美子・30代、
福島県連合青年会・長谷川 綾・30代）

熊本地震 10 年感謝の集いへ

6月6日、熊本県青年会館で開催された「熊本地震から10年 感謝の集い」に参加しました。震災から10年という節目に、長年会館を支えてくださった方々への感謝をようやく伝えることができた、心温まる集いでした。会館が43年間にわたり県の青年活動を支えてきたこと、そして歴代団員の結婚式など数多くの人生の節目に寄り添ってきたことを改めて感じました。県への返還という課題も抱える中ですが、現役団員・OB・会館が継続的に関わり合い、利用機会を増やしていくことの大切さを参加者みんなで確認しました。



これからも熊本の仲間たちと力を合わせ、会館と青年活動を守り続けていきたいと思えます！

（熊本県青年団協議会・牟田 勇佑・20代）

11月号から『Youth掲示板』は『Youth』としてリニューアルします！

昨年11月号から始まった「Youth掲示板」ですが、次号の11月号から装いも名称も新たに『Youth』として生まれ変わります！これまでどおり青年団から寄せられる投稿欄も残しつつ、全国各地の支局員の学びや企画にもとづいた特集記事を新たにお届けします。各地の実践がつながり、みんなの学びになる紙面をめざしていますので、どうぞお楽しみに。感想や実践報告のご投稿も、これまでどおりお待ちしております。

Youth 投稿募集中

リニューアル予定の『Youth』では、どなたでも投稿いただけます。お申し込みは右記のQRコードから。



『Youth掲示板』にご投稿いただいたみなさま、ありがとうございました！

掲載号	タイトル	投稿者
2025年 11月号	宮城県青年団会宿!!!	宮城県・長煌晟・富谷市青年団・20代
	北方領土復帰促進婦人・青年交流集会の報告会を開催しました	北海道・北海道青年団体協議会・阪光平・40代
	能登半島に日青協事務局研修へ	埼玉県・日本青年団協議会・水村仁美・30代
2026年 2月号	滋賀県にて青年団教宣コンクールを開催♪	滋賀県青年団体連合会・富長弘宣・30代
	宮城県青年問題研究集会を行いました！	宮城県・長煌晟・富谷市青年団・20代
	平和活動のあるべき姿	奈良県・無所属・大淀仰理・30代
2026年 5月号	地球旅豆本に北方領土集会の報告記事を寄稿	山口県青年団・久保博成・30代
	第142回定期大会を開催しました	沖縄県青年団協議会副会長・仲耕人生・30代
	土佐市青年団が地域食堂！？	高知県土佐市青年団・松岡太一・30代
	会員、大募集中！	北海道・長沼町青年団体協議会 愛称：ぬまだん・30代

※掲載時の投稿者情報となります。

これまで全国青年大会フットサル種目への参加経験はあった吉本 翔代議員（今年度日青協執行理事に就任）だが、今年度は日青協定期大会に初めて出席し、青年団研修にも初めて参加した。競技の場とは異なる議論と学びの全国場で何を感じたのか。地域で根を張り全国とつながることで初めて見えてくるものがある。その実感を届ける。



定期大会2日目の本会議にて、宮崎県青年団協議会から第74回全国青年大会交流企画「外苑マルシェ」の開催提案がなされた。各地から賛同の道府県名札が次々と掲げられ、拍手のなか宮崎県団主導での開催が決定した瞬間。

上（ほか約20名がオンライン）がコロナ禍以前ぶりに対面で集った。大阪府青年団協議会（以下、府青協）として2011年以来15年ぶりの参加となった吉本翔代議員（33）は、「思った以上にまじめな会議でびっくりした」と振り返る。全国各地の代表が地元の課題や活動をふまえ、全国としてどう取り組んでいくかを真剣に議論するその場は、地元だけでは得られない視野をもたらしてくれた。各地の青年団が地域で取り組んできた活動が、そのまま全国の議論の素材になっていく。単に方針を決める場ではなく、地域の実践が全国に直結する場であることを肌で感じた吉本さん。夕食交流会でも「いろんな人が話

しかけてくれて、仲間に入りやすかった」と、オフの場ならではの温かさを実感した。会議の真剣さと交流の親しみやすさ、その両面を経験したからこそ「泉佐野市青協の全員がいずれ定期大会に出席した方がいい」という確信を持ち帰ることができた。

●熱が冷めない

6月13日から14日にかけて、7年ぶりに開催された青年団研修（旧称：活動家研修会）に、吉本さんは泉佐野市の仲間を連れて参加した。日青協にとっても久々の開催で準備に戸惑いも多かったが、全国各地から集まった青年団員が互いの実践を語り合い、学び合う場は確かな熱気に包まれていた。各地の取り組みや課題を聞くうちに、自分たちの活動を客観的に見つめ直す機会にもなったという。研修を終えた仲間たちからは「他

地域で活動している実践や課題を、もっと自分事として考えないといけない」という声が次々と上がった。研修から2週間以上が経過した今（取材時）もその熱は冷めていない。吉本さん自身も「連れてきてよかった。これからも全国とつながっていきなさいいけない」と強く決意したという。

●地域から全国へ

地元の定期総会（本誌2ページ参照）で方針を決め、地域のために動く。その積み重ねが、全国の場での発言や交流に厚みをもたらす。各地の青年団が地域で元気に活動しているからこそ、日青協が主催する機関会議や研修事業も活気づいていく。そして、地域あつての全国であり、全国があるからこそ地域もつながっていく。泉佐野市青年団協議会の歩みは、そのことを改めて教えてくれた。

魅力発掘

もっと知りたい！

第76回日青協定期大会

今、青年を取り巻く社会は不安に満ちているのではない。物価高や災害、先の見えない世界情勢に、誰もが心のどこかで身構えている。そんな時代に、私たち青年団は社会にどんな希望を示せるだろうか。

答えは、案外身近にあるのかもしれない。祭りの片付けに黙々と汗を流す姿、初めて参加した仲間にかける声、夜遅くまで続いた会議の後の一杯。全国各地の青年団で、日々小さな「元気」が生まれている。ただ、その多くは点として存在するにとどまり、隣の団や地域、社会には届いていない。この点状の元気をつなぎ合わせるこそ、「運動」ではないか。運動とは「みんなで取り組むこと」であり、地域の活動が運動へとつながっていく。

若い世代の人は「青年団運動」と聞くと、身構える人もいるだろ

う。反政府や過激なイメージを持つ人もいるが、本質はそこにはない。困ったときに「大丈夫?」「一緒にやろう」と声をかけ合い、助け合える、顔の見える人が増えること。そんな地域を自分たちの手でつくるのが、青年団運動である。

この運動は、一つの地域だけで完結しない。地域での学びや活動があるからこそ全国の方が生まれ、その場があるからこそ地域での学びと交流はさらに増えていく。ある地域で芽生えた小さな元気が、全国で語られたとき、それを聞いた別の地域の仲間の背中をそっと押すことがある。そこでの学びや出会いは、再び地域へ持ち帰られていく。地域から全国へ、全国から地域へ——その往來の中でこそ、一つひとつの元気はつながり、社会全体へと広がっていく。今こそ、それぞれの元気を持ち寄り、社会に示す時だ。

高原町を
盛り上げる!



職場の先輩に青年団の飲み会に誘われたことをきっかけに高原町青年団協議会に入団した原重さん。ミニバレー大会への参加やボランティア活動など、様々な青年活動で活躍している。青年団での思い出として印象に残っているのは、高原町で開催される「日本発祥地祭り」で、ふわふわドームを設置し、多くの子どもたちに楽しんでもらえたこと。祭りが終わった後に仲間と飲んだお酒の味は、今でも心に残っているという。全国青年大会への出場や宮崎県青年団事業の交流会への参加



(宮崎県・高原町青年団協議会)

きっかけや思い出は
お酒から
原重 雄大さん (21)

も忘れられない思い出の一つ。「焼酎をストレートで飲んでいる会員がいて感動しました」と振り返る。青年活動の魅力について尋ねると「様々な地域の方と交流ができたことが嬉しかった。地元の活動や社会貢献活動ができること」と話していた。原重さんは今年から同会の会長に就任。例年実施している地元祭りの祭りはもちろん、昨年度実施できなかった地域食堂も復活させる予定で、青年団同士の交流を深め、地域貢献に励みたいと語ってくれた。

●畑中哲哉支局員 (宮崎県青年団協議会 副会長) より投稿

編集後記

2024年4月に産休に入り6月に男の子を出産し、今年4月に2年ぶり復帰。「戻れるようつないで」と託した会長はOBとなりましたが、新会長は「託されました!」と笑顔で迎え、みなさんも「おかえり」と声をかけてくれました。つないでくれたみなさんに感謝しています。浦島太郎ばりに置いていかれていますが、追いつけるよう頑張ります。これからもよろしく願います。(し)



最新の情報は
こちら
<https://www.facebook.com/nisseiky01/>



れこめんど

あまり知られていないすてきな場所や食べ物...地元のおすすめを青年団のエピソードも交えてご紹介します。

山口県青年団が「れこめんど」するのは、明治維新以降の歴史が息づく山口市の「菜香亭」です。今年7月、私たちは団の活動として浴衣の着付け教室を開催し、そのまま涼やかな浴衣姿で菜香亭を訪れました。ここの見どころは、なんとといっても百畳の大広間を埋め尽くす著名人たちの「扁額」です。明治から平成まで、日本の命運を担った偉人たちの力強い筆遣いを間近で見ていると、まるで本人と対面しているかのような不思議な高揚感に包まれます。150年の歴史を五感で味わえる壮観な大広間。皆さんもぜひ、お気に入りの和装で歴史のロマンを感じに足を運んでみませんか?



●久保博成さん (山口県青年団 団長) より投稿